

機関番号：14401  
 研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20720238  
 研究課題名（和文） 南ヨーロッパにおけるエヴァンジェリカルとカトリック・ファンダメンタリズムの展開  
 研究課題名（英文） The Expansion of Evangelicals and Catholic Fundamentalism in Southern Europe  
 研究代表者  
 藤原 久仁子 (FUJIWARA KUNIKO)  
 大阪大学・人間科学研究科・特任研究員  
 研究者番号：00464199

研究成果の概要（和文）：研究の成果の一部は以下の形式で一般に公開した。1）論文・図書  
 論文『『ファンダメンタリスティック』という選択』のなかで、カトリック・ファンダメンタリズムに関する3年間の文献研究とマルタの宗教集団に関する現地調査で得られた知見を示した。2）シンポジウム 2010年3月に国際シンポジウム「トランスナショナル時代における地中海と『境界』：人類学の視点から」を開催し、トランスナショナルな移動を生きるわれわれと宗教の関係を5人のパネリストとともに論じた。

研究成果の概要（英文）：The results of this study were opened to the public as follows. 1) Books and Papers I have shown my idea and insights especially in the paper “The Choice to be ‘Fundamentalistic’” based on my fieldworks in Malta and research of literatures. 2) Symposium I hosted the Symposium “Blurring Boundaries: Towards the Anthropology of Translocalities in and beyond the Mediterranean” and discussed the meaning of religion in transnational settings.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：エヴァンジェリカル、ファンダメンタリズム、ボーン・アゲイン、異文化共存、トランスローカリティ、カトリック文化研究、文化人類学

## 1. 研究開始当初の背景

宗教間の摩擦・衝突が顕在化する今日において、ファンダメンタリズムと呼ばれる宗教現象の動向及びその内実を把握することは重要な課題となっている。しかし、イスラームやプロテスタントを対象にした研究に比

して、カトリック世界に広がる「ファンダメンタリズム」を対象にした研究は極めて少なく、その動向や実態は未だほとんど解明されていない。このため、カトリック諸国にエヴァンジェリカル等プロテスタント系の「ファンダメンタリズム」が広がっていることも、

それとは区別された「カトリック・ファンダメンタリズム」なる言葉が存在することもほとんど知られていない。ファンダメンタリズム研究では、誰が誰をラベリングしているかという名付けのポリティクスが議論され、分析概念というよりは関係概念として捉えるべきであるとの主張がしばしばなされる。しかし、カトリックにおいては信徒間で複数の定義が使い分けられており、またファンダメンタリズムを肯定的に自ら名乗る集団もあり、そのような了解を超えた複雑な状況にある。世界各地で広まる宗教復興やファンダメンタリズムの動きを見定めるためには、カトリック世界におけるこれらの動向を踏まえた論点の抽出と整理が必要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、カトリック世界のなかでも特に研究蓄積の少ない南ヨーロッパ地域に広がるプロテスタントとカトリック双方の「ファンダメンタリズム」の動向と内実を捉えることにある。これにより、暴力や政治との結びつきに重点の置かれた従来の研究に対し新たな視点を導入し、かつ、宗教復興と呼び得る現象が各地で起きているなかで、なぜ南ヨーロッパには巡礼や祝祭など、民衆による緩やかな宗教復興の動きしか見られないのかという、研究上の不均衡に起因する視点を修正することを目指す。

第二に、カトリック教徒が他のカトリック教徒に対して用いる「ファンダメンタリズム」の語用論的特徴を明らかにし、「内なる他者」理解の問題に分け入ることにある。多民族共生や異文化理解の問題は今日ますます重要性を帯びるようになり、問題解決に向けた研究も進められている。一方、自民族、自文化内部の対立については十分な検討が行われてきたといえない状況にある。本研究では、カトリック教徒がカトリック内部の者を他者として排除すると同時に、我々の問題として同じ地平で「ファンダメンタリズム」を使用する場面の状況分析を行う。そして、さまざまな葛藤や矛盾に彼らがいかに対処し折り合いをつけているかを明らかにすることを通じて、他者との共存や調和的關係性の構築に向けた課題領域を明確にすることを目指す。

## 3. 研究の方法

方法論として、フィールドワーク（現地調査）、特に複数地域を対象にした多現場調査 multi-sited fieldworks を用いる。エヴァンジェリカルやカトリック・ファンダメンタリズムの集団研究であるため、各集団の本部・支部・リトリート先、月例会等の開催地において調査を行う。ひとつのコミュニティを対象とした全体論的アプローチに基づくコミ

ュニティ・スタディーズではなく、各市町村に張り巡らされたソーシャル・ネットワークを追う。

文献資料については、首都ヴァレッタにある国会図書館のほか、プラタルバイダの歴史資料館やムシーダのマルタ大学図書館を活用する。

## 4. 研究成果

カトリック・ファンダメンタリズムについては、『ファンダメンタリスティック』という選択：カトリック世界における名付けと名乗りと生き方のポリティクス』『シリーズ来たるべき人類学第3巻 宗教の人類学』石井・花渕・吉田編、春風社、pp. 97-125、2010年のなかで、マルタの宗教集団ムゼウムに関するフィールドワークに基づき、ファンダメンタリズムに関する欧米の研究の問題点を指摘し、他者や自己に対する名付けや名乗りの揺らぎを研究の俎上に乗せる必要性を論じた。また、「ファンダメンタリスティック」な生活を自らに課す人びとが頻繁に訪れる告解室を題材に、コンタクト・ゾーン（メアリー・プラット）の視点から論文を執筆した（「主体化をめぐる複数の回路とトランスカルチュレーション：マルタにおける告解の事例から」2011年）。告解と司牧者権力は、生政治や福祉国家の文脈で言及されることが多い。この論文では、マルタにおける告解のフィールドワークから、信徒の罪の告白が実際には聴罪司祭から省略を促されたり一方的に中断させられたりしている点、司祭の側が信徒から知り得た「秘密」の「告白」をする場合がある点、司祭に「告白」を働きかける欲望主体として信徒が告解というコンタクト・ゾーンに登場する場合がある点を明らかにし、従順な隷属主体以外の複数の主体形成が告解を通じてなされていることを論じた。

「カトリック・ファンダメンタリズム」は、カトリック教会至上主義のほか、マリア出現地への熱心な巡礼を指すこともある〔M. W. Cuneo, *The Smoke of Satan: Conservative and Traditionalist Dissent in Contemporary American Catholicism*, JHU Press, 1999〕。「オーセンティシティの多様化論再考：秋田のカトリック巡礼地『聖体奉仕会』を事例に」（2009年）では、南ヨーロッパをはじめ、世界のマリア崇敬者、特に「出現のマリア」信仰の篤い人びとが訪れる日本の巡礼地を取り上げた。そのなかで、オーセンティシティ論を観光研究から巡礼研究にも広げる必要性を論じ、たとえば多様なオーセンティシティが巡礼者によって追求されたとしても、必ずしも意味のせめぎあいや葛藤が起きるわけではないことを示した。

巡礼地に関しては、「巡礼地はどこにある

か：サイバークレース時代における聖の場所性をめぐって」(2009年)において、日常と非日常を往還する行為として捉えてきた従来の巡礼研究に対する批判的検討を行った。というのも、ネット巡礼や聖物のネット購入が可能になる以前から、感謝巡礼という形で日常的に巡礼は行われており、巡礼の目的地は必ずしも聖なる場所として客観的指標を常に維持しているわけではないからである。すなわち、聖の世界は日常のなかにたち現れては消えていき、巡礼者の自己物語の展開に応じて再び浮上する通過点のようなものとして経験されている。巡礼地は時と場合に応じて、ある個人にとって聖なる場所になったり日常的な風景の一部になったりする。本論文では、エクス=ヴォト(奉納物)を捧げたり、巡礼地の聖物を持ち帰ったり、トイレや寝室をそれらでデコレイトし、私的な祭壇を作ったりといった、モノを通じた日常的なやりとりの意味も含め、聖なる場所の偏在性と移動可能性について論じた。

人びとは心の安寧を求めてエヴァンジェリカルや「カトリック・ファンダメンタリズム」の集会に向かう。『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』(2010年)は、心の安寧 well-being に照準を定めて考察した編書である。Well-being に関する研究成果の一部は、2011年8月1日から5日に東アジア人類学会と韓国文化人類学会の共催で行われる Material Asia: Objects, Technologies and Rethinking Success において発表する定である(パネルのタイトル: Recontextualization of Technologies and Materials: Pursuing the Well-beings in Aging Societies in Japan and Korea. 藤原のタイトル: Religious Commodities and Narrative Creation: The Consumption of Removable Deity Heads, Card Amulets and Blessed Underclothes)。

エヴァンジェリカルについては、調査データは集まったものの、その広がりの実態については未だ不明な点が残されており、今後も引き続き調査を行っていく予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- ①藤原久仁子(書評)「臼井陽監修、赤尾光春・早尾貴紀編著『ディアスポラから世界を読む：離散を架橋するために』『コンフリクトの人文学』(2011年)、大阪大学出版会、第3号：288-290(査読無)
- ②藤原久仁子(翻訳)「グスタボ・リンス・ヒベイロ著『海賊版』の開発/発展『コンフリクトの人文学』(2011年)、大阪大学出版会、

第3号:27-40(査読無)

- ③藤原久仁子(論文)「巡礼地はどこにあるか：サイバークレース時代における聖の場所性をめぐって」『宗教と社会』、2009年、第15号、pp.23-41(査読有)
- ④藤原久仁子(論文)「オーセンティシティの多様化論再考：秋田のカトリック巡礼地『聖体奉仕会』を事例に」『コンフリクトの人文学』(2009年)、大阪大学出版会、第1号:135-161(査読有)
- ⑤藤原久仁子(報告書)「ライフデザインと福祉 well-beingについて考える」『ライフデザインと福祉(well-being)の人類学：多機能空間の持続的活用に関する研究』(2009年)、国際フォーラム報告書、pp.104-105
- ⑥藤原久仁子(翻訳)「デイヴィット、チデスター著『コンタクト・ゾーンにおける夢見：19世紀南アフリカのブルーの夢・幻視・宗教』『コンタクト・ゾーン』(2008年)京都大学人文科学研究所人文学国際研究センター、第2号：1-22

[学会発表](計1件)

- ①藤原久仁子「『忠実なカトリック教徒』の/という選択」(2008年5月31日)、日本文化人類学会第42回研究大会、京都大学

[図書](計8件)

- ①田中雅一・稲葉譲編、晃洋書房『コンタクト・ゾーンの人文学』(2011年)、総頁数未定(藤原久仁子「主体化をめぐる複数の回路とトランスカルチュレーション：マルタにおける告解の事例から」)
- ②波平恵美子編、医学書院『文化人類学』(2011年)、総頁数未定(藤原久仁子「宗教と世界観」)
- ③世界宗教百科事典編集委員会編、丸善『世界宗教百科事典』(2011年)、総頁数未定(藤原久仁子「南欧の宗教状況」)
- ④宗教学事典編纂委員会編、丸善『宗教学事典』(2010年)、760頁(藤原久仁子「フェティシズム」)
- ⑤吉田 匡興、石井 美保、花淵 馨也編、春風社『シリーズ来たるべき人類学第3巻 宗教の人類学』(2010年)、273頁(藤原久仁子「『ファンダメンタリスティック』という選択：カトリック世界における名づけと名乗りと生き方のポリティクス」pp.97-125)。
- ⑥鈴木七美、藤原久仁子、岩佐光広共編、御茶ノ水書房『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』(2010年)、187頁(藤原久仁子「巡る：岡山県井原市『嫁いらず観音院』に託する高齢者の想い」、pp.149-161、「あとがき」、pp.179-180)。
- ⑦国立民族学博物館『民博通信』(2009年)(藤原久仁子「告解制度を再考する：マルタの週末の風景から」)

⑧日本文化人類学会編、丸善『文化人類学事典』(2009年)、800頁(藤原久仁子「巡礼と場所」)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤原 久仁子 (FUJIWARA KUNIKO)  
大阪大学・人間科学研究科・特任研究員  
研究者番号：00464199